

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-42	14-145	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Tuberculosis and excess alcohol use in the United States, 1997-2012. 1997-2012 のアメリカ合衆国における結核と過剰アルコール摂取		
執筆者		
Volkman T, Moonan PK, Miramontes R, Oeltmann JE.		
掲載誌		
Int J Tuberc Lung Dis. 2015 Jan;19(1):111-9. doi: 10.5588/ijtld.14.0516.		
キーワード		PMID
薬物使用、結核菌、直接観察療法、喀痰培養、培養転換		25519800
要 旨		
目的： 結核患者におけるアルコールの過剰摂取は、結核の管理戦略を難しくする。結核管理における過剰飲酒の影響を明らかにするため、15 歳以上の米国民における過剰飲酒と結核の関連を検討した。		
方法： 1997-2012 年に米国国立結核サーベイランスシステム (National Tuberculosis Surveillance System : NTSS) に報告されたアメリカ合衆国とコロンビア特別区におけるデータを使用した。多変量ロジスティック回帰を用いて、過剰飲酒と結核の治療結果および感染増加のマーカー(結核菌株の遺伝子型によるクラスター形成など)について検討した。また、Cox 比例ハザードモデルを用いて、喀痰培養検査結果が陽性から陰性に転換した率と過剰飲酒との関係を調べた。		
結果： 研究期間中、207,307 人の結核症例が報告され、このうち過剰飲酒者の割合は 31,207 人 (15.1%) であった。過剰飲酒者は、男性患者 (20.6%) と米国生まれの患者 (24.6%) で多かった。過剰飲酒は喀痰塗沫検査陽性と関連があった (調整オッズ比(aOR) 1.23、95% 信頼区間(CI) 1.18-1.28)。治療方法では、自己管理療法と比較し、過剰飲酒は直接服薬確認療法と関連があった (aOR 1.92、95%CI 1.81-2.03)。治療結果では、治療完了と比較し、過剰飲酒は死亡 (aOR 1.16、95%CI 1.10-1.22) または脱落 (aOR 1.25、95%CI 1.15-1.37) と関連していた。喀痰培養の陽性から陰性への転換率は、過剰飲酒者ではない患者でより高かった (調整ハザード比 1.20、95%CI 1.18-1.23)。		
結論： 結核患者における過剰なアルコール摂取は一般的であり、結核感染、喀痰培養検査における陽性から陰性の転換率の低さ、死亡率の高さと関連していた。		